

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県行田市天満8-29		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成30年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行田ケアセンターそよ風では、今年度で開所から17年経っており、開所当初からの利用者様一人一人に寄り添い、尊厳を大切にしながら温かい介護を日々実践しております。毎月実施している、セクション会議内で利用者様の状態や想いを職員一同で話し合いを行い、より良いサービスになるよう情報共有し、日頃のケアに繋げております。今年度の法改正より強化された「身体拘束・虐待防止委員会」では、年間予定を立て委員会実施し、日頃の対応や言葉遣い(スピーチロック等)になっていないかを協議し、利用者様が抑制される事のないケアを見直しております。職員育成においては、施設内での年間研修の他に、本社(教育担当部等)で行われる研修への参加や、行政主催の研修にできるだけ参加してもらい、自己のスキルアップを図り、資料を基に他職員へ情報共有をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の笑顔と生きがいのある生活をめざし、家族や地域に支えられた事業所運営がなされている。事業所では、常に利用者の安心と安全に気を配ると同時に、職員の教育と育成にも力を注がれ身体拘束や虐待の廃止等にも委員会の開催回数を増やしたり、事業所独自の勉強会を実施されている。
 ・運営推進会議には家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員の方に出席いただき、事業所の運営と取り組みの報告のほか、市内の高齢者の状況や防災対策、身体拘束や虐待防止などについて活発な意見交換がなされている。
 ・目標達成計画についても、災害対策を取り上げ、消防署からのアドバイスを受け、自事業所の環境に合わせた対策と訓練が実施されたことから目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域との関わりを持つ事を重視する事を理念とし、職員及び管理者は理念の共有が行えるような環境作りを行い、実践しております。	利用者主体を基本に理念が設けられ、家族との関係も大切にされ、相談や要望には真摯に対応するよう努められている。職員も「笑顔」と「自立」を意識したケアを実践するよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩レク等で近隣の方々との会話をしたり、地域の行事に招かれ、参加を行えるだけ地域の方々との交流に努めております。	事業所を支える一つの柱として、地域とのつながりを大切に考え、自治会長や民生委員の方々との相互協力に取り組まれ、利用者も地域に溶け込み、周囲の環境にも恵まれ、散歩時には地域の方や子供たちとの交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議や年に数回の家族会議を開催し、日々の支援方法や実践状況の情報を公開しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者が会議に参加する事で、地域として何を要望されているかを傾聴し反映させている。地域の会議内容や防災への対策等の話し合いを実施しております。	イベント開催と併行して開催する家族中心の会議と市担当者や地域包括支援センター職員も参加される形態を取り入れ、常に「利用者のために」を最優先にイベントの運営や災害対策、身体拘束廃止の取り組み姿勢などが話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上で確認が必要な場合等、密に連絡をさせていただき、適正に報告・帳票類確認に努めております。	市担当者との関係は良好で、防災対策や身体拘束廃止等についての事業所の取り組みに行政からの情報やアドバイスをもらうなど、運営推進会議を中心に連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度よりの「身体拘束廃止委員会の取り組みの有無」より、適正に委員会を発足・実施しており、介護従事者への周知・指導行っております。	法律改正を機に事業所や職員の考え方の見直しを図り、「これってどうなの」と具体的な事例を用いながら勉強に努められている。「言い方が丁寧なら、行動も丁寧になる」をモットーに言葉使いについての話し合いもなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社・事業部主体の研修への参加・行政主体の研修へできるだけ参加し、情報を施設職員へ共有しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に会社・教育担当部内での勉強会へ参加をし、職員が学ぶ機会を作っております。勉強会後は会議録を回覧し、情報共有に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書及び契約書に関して、各項目細かく説明、お客様が理解、了承していただくよう細かく説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年度の家族会議や定期的な面会にご家族様よりの意見、要望を聞かせていただき、都度丁寧に対応させていただいております。疑問や質問等誠意をもってお答えし、サービスに繋げております。	利用者・家族の意見や要望には面倒がらず真摯に対応し、耳の痛いことでも「気付かなくて申し訳ない」と謙虚に受け止められている。利用者から「お風呂の回数」の希望が出され、すぐ対応された事例も伺われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回各ユニット会議を開催し、その中で職員の要望等を収集し、その都度検討・話し合い行っております。	職員間ではお互いを信頼し、意見や思ったことは気軽に話し合える環境が整えられている。担当者制などを用いて職員に責任感を持った業務を行うよう取り組まれ、お互いの役割を理解し、事業所の運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や相談を個別に受ける担当者を決め、職員全体でやりがいや向上心を持って、就業できるように話を聞いたり、処遇の見直しを図っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、認知症・身体拘束・虐待防止等を研修にて、個々の知識向上及びスキルアップに繋げております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議にて同業者との交流する機会があり、情報共有を行い、その中で意見を頂き、会社内での意見交換等に参加し、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の基本情報を職員全体で共有し、日々の生活の中で利用者様個々の気持ちやニーズを見つけ出し、穏やかで安心できる環境作りができるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々のご家族様からの要望や意見を取り入れプランに反映させております。意見箱からは、ほとんど意見は汲み取る事が難しい為、施設サイドから投げかけることが多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設利用前に施設への見学を進めており、施設内での生活環境やサービス内容を納得された上で利用を進めております。施設での受け入れが困難な場合は他施設への情報をお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人のできる事、できない事を見極め残像機能の維持・向上を目指しております。自立支援介護への取り組みも実施しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には出来るだけ、面会の機会を多く作ってもらえる様声掛けをさせていただいている。利用者様と家族様が楽しめる環境作りをできるだけ提供しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のこれまでの生活歴を活かし、友人・知人との交流関係を継続できるよう、連絡が取るお手伝いを職員が行い、できるだけ地域とのつながりが継続出来るようにしております。	友達が来所して一緒に出かけたり、年賀状のやりとりなど、馴染みの方との交流がなされている。入居後、利用者同士、ボランティアの方などの新たな馴染みの関係が生まれ、職員が協力して支援するよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲良く、施設の中で楽しく充実した生活が送れる様に配慮しております。孤立している方が出ないように時には職員が間に入り、利用者様同士が良い関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、他サービスへ移行された利用者様には、移行先へこれまでのサービスの情報を書面もしくは都度口頭にて説明しております。情報提供の際は、ご家族様へ確認した上で行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者様それぞれの望みや想いを汲み取り、出来るだけ要望に応えられる様に努めております。	日常的な会話を大切に、職員がいろいろな話題で話しかけ、垣間見える利用者の気持ちに沿えるよう取り組まれている。踏み込まれたくない面には配慮しながら、仕事のことや学校のことなどのメニューで声かけが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人もしくは、ご家族様より聞き取りを行い、生活環境、生活歴の情報を収集し、プランに繋げ漏れのないように把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員都合ではなく、利用者様一人一人が何をしたいかを見極め、得意なことは伸ばしていけるよう支援しております。個別支援も取り入れております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の想い、家族様の要望を介護計画に反映できるように聞き取り等で、常に情報収集を行う。会議等で職員が意見を出し合い、より良い介護計画を作成できるように努めております。	利用者が自立した生活を送るための具体的な支援項目が盛り込まれたケアプランが作成されている。担当職員や計画作成担当者によるサービス担当者会議を中心にモニタリングを実施し、プランの実施経過や利用者の変化に気づくよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活の様子、介護計画に即した援助の実施状況、状態の変化等を記載している。介護計画の見直し、評価に活かし、ケアの変更点は申し送りノートにて情報の共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態、家族様の事情、その他状況に応じて必要な支援を柔軟に対応できるようにしている。他の部署と連携してレクリエーションを実施し、サービスの充実を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が地域の中で安心して暮らしていけるように、地域の方々(自治会長、民生委員、市役所等)へ情報を公開し、意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診、(内科、歯科往診あり)により定期的に受診され、利用者様、家族様の状況に合わせて、職員対応も行い適切な医療が受けられるように支援しております。	入居時に受診医療機関について要望を聴き、常に適切な医療サービスが受けられるよう取り組まれている。外来受診の同行は家族が基本だが、利用者の日頃の健康状態が分かる職員が受診に同行されるケースが見受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定を毎日実施し、表情観察や食事量、排泄量等を確認し、急変時には施設看護師への協力を仰ぎ、適切な医療が受けられる様に対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関側への支援の状況などの情報を提供。適時面会へ伺い、経過の情報を収集し、相談、情報交換の窓口となる方へ密な連携をとる。情報を共有することで早期な退院へ繋げていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には、終末期の説明を行っております。現在、看取り介護は行っていないが、各職員が介護で出来る事、出来ない事を把握し、ケアを行えるようにしている。提携病院への訪問介護を導入し看取りの実績はあり。加算は算定しておりません。	重度化、終末期に際しては、利用者の状態ごとに話し合いが持たれ、家族の理解を得て、医師や訪問看護の指示や助言を受けながら、利用者に寄り添ったケアプランの作成に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の仕方の研修会に参加し、いざという時に対処出来る様に訓練している。事業所内でもマニュアルが有、緊急時に対処出来る様に周知しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間は家が一番近い職員、連絡が早くつく職員からの緊急連絡網を作成しており、年2回の消防署員立ち合いの元で訓練を行う事で、救急時に慌てないで行動出来るようにしております。	火災と地震を自事業所が最も警戒する災害と捉え、消防署からの助言に基づき、一時避難の場所や避難方法などが明確にされている。また、災害発生時の地域と相互に助け合う協力体制も整えられている。	質の高い災害対策が取られています。災害発生は予想がつかないと想定されず。常に職員が適切な行動がとれるよう訓練を重ね、習慣化と平準化を図れるよう取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけない様に声掛けを行っております。お客様一人一人の人格を尊重し、尊厳を大切に介護を実践しております。	利用者が恥ずかしいと思うことは話さないなど、人格の尊重に努められている。また、パソコンや携帯電話での写真撮影・保管の禁止、健康保険証の持ち出し管理など個人情報への適切な対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般を職員が決めるのではなく、利用者様が自己決定が出来る様な言葉掛けを行い、本人様よりの希望が伝わりやすい関係作りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人に職員が合わせていき、本人様が何がしたいか・何を考えているか、気持ちに沿った支援が行えるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様個人の好みに合わせて散髪を行っている。身だしなみに気を配り、行事等の時は化粧を無理強いしないように行い、おしゃれを楽しんでいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューを実施しており、利用者様が好みものを選択。好きなメニューを召し上がっていただく。テーブル拭き、下膳等が可能な方は行っていただき、準備・片づけの手伝いに参加しております。	行事食のお祝い膳や郷土料理など利用者が食事が楽しめるよう取り組まれている。また、外食や出前、弁当持参のピクニックなどのほか、日常の食事にもさまざまな工夫が図られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが整った食事を食べやすい形で提供し、摂取量の少ない利用者様には、好みの物へ変更している。水分摂取量が少ない利用者様には好みの水分へ変更し、水分が少なくならないように注意。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、見守りを行っております。自分ですることが難しい方には援助を行い、誤嚥性肺炎のリスクの低減に努めている。夜間は義歯を外し職員で管理させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を毎日記入し、個々の排泄パターンを職員が把握、自らトイレへ行かれない利用者様には定時で声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らす様な支援を行っております。	オムツは最終手段と考え、夜間間に合わない時はPTイレを使用するなど、トイレ誘導を基本に排泄の自立への支援が行われている。また、声掛けなどは周囲に聞こえないよう行うなど、プライドや羞恥心への配慮も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分と繊維質の多い食べ物を提供している。日常的に体を動かす機会を作っていく、腸の運動の活性化を促す。排泄表からパターンを把握し、必要な利用者様へは下剤の服薬支援を行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時にゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように利用者様の希望を尊重し、援助を行っております。声掛けした際に拒否が強い方に関しては、無理じいすることなく、気分に沿った対応を行う。	入浴回数を増やして欲しいなどの要望に応えるほか、入浴を好まない利用者には根気よくお誘いするなどの工夫を図り、利用者の健康管理と清潔保持を重視しながら支援に取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めております。ゆっくりとした休息や安眠が取れるように個々に合わせた支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで処方箋を管理し、職員が薬の内容、効能を確認している。服薬の管理はチェック表を使用し、誤薬、飲み忘れの無いようにしている。服薬時は職員同士で声掛けを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ等個々の好みに合わせた活動に参加していただき、気分転換を図っていく。生活歴と認知度に合わせた役割を持って生活できるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて、散歩や買い物等へ外出をされております。外出内容によっては、家族様へ連絡を取り、協力が得られるようにしております。	水族館に出かけたり、ドライブを楽しむほか、日常的には歩いて近くのスーパーやドラッグストアに買い物に行き、ペットショップで犬猫を見て楽しむなど、利用者が行きたい場所への希望に応じて、外出する機会を多くするよう支援がなされている。	外出については職員が工夫しながら様々な支援が行われていることから、家族会や運営推進会議を利用して、今まで以上に外出の様子を家族にお知らせし、理解と協力を得られるよう取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者様が自分でほしい物を購入する事 の大切さを職員は理解していて、買い物時 は職員が付き添いを行い、自由に買い物か ができるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話使用時は職員が付き添い、番号を押して 掛ける支援を行っている。利用者様自ら 電話で話す事もあり、家族様からの電話に も出られる事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の様子や外出、イベント時に写 真撮影を行い、行事等に写真の掲示を変更 している。共有空間では不快感を与えない 様な環境作りにも心がけている。	利用者は自然にリビングに集まり、それぞれが 自分の居場所を見つけて落ち着いた生活を送 られている。また、朝の空気の入替えやこま めな清掃などを行い、利用者の居心地の良さ と同時に来訪者が不快にならない環境作り に取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	リビングでは各利用者様が他者様、職員と 気軽に談笑できるような空間を作り、各居室 では一人になる空間を作り、ゆっくり休養で きるような環境作りに努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にて利用者様本人が安らげるような 品物やテレビ等を持ち込み、居心地の良い その人らしい居室作りに努めております。	入居前から使い慣れた家具などを自由に持ち込 まれ、居室内ではクラシック音楽鑑賞や編み物な ど好きなことを自由に楽しまれ、利用者一人ひと りの生活スタイルを大切に家族の要望にも応えた 居室作りへの支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	利用者様一人一人の身体状況に合わせ、 手すりの設置等で個々の分かる力を見極 め、必要な目印をつけたり、物の配置に考 慮し、自ら行えるように支援しております。		

(別紙4(2))

事業所名:行田ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日:平成 30年 12月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対応策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者様が避難できる方法を全職員が身につける必要があり、慌てずに行動するためにも、より実践に近い消防訓練を実施していく必要がある。	年間計画から自衛消防訓練は継続して実施していき、行田消防署員への相談・助言を組み込んだ消防計画書を作成していく。夜間帯の職員緊急連絡網においても、実践で連絡が回るよう訓練日に連絡網を実施していく。	従来の自衛消防訓練計画書では、災害として地震のみしか取り入れていなかったため、水害等の別の災害も想定しての訓練を実施していく。また、火災時に職員緊急連絡網がきちんと回るように、訓練時に連絡網の練習も並行して実施していく。	6ヶ月
2	49	○日常的な外出支援 日常的な散歩の他に、外出行事としてドライブ等の外へ出る支援が回数減している現状がある。機能訓練としても、今後回数を重ねて実施する必要がある。	施設前の水城公園での日常的な散歩レクの回数を増やして実施し、ドライブ等の外出レクを毎月年間行事計画に組み込み行っていく。機能訓練を兼ねた、外出レク及び外食レク等。	日常の散歩レクとは別に、外出企画を年間行事に取り込み実施していく。また、家族様アンケートより、外出をしているかわからないとの回答が複数あり、今後は外出行事報告を電話連絡又は、定期来所時にその都度家族様へ報告していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。